

おおいた型放牧の技術向上を目指した 現地研修会を開催

平成23年8月30日由布市挾間町、庄内町において、牧柵の正しい張り方、放牧地の牧草の適正な維持管理などの研修と併せ意見、情報交換会が「おおいた放牧ネット」会員など35名の方々が参加し開催されました。



挾間町朴木地区で現地研修会がスタート



畜舎近辺に3haの水田放牧を展開する西郡正俊氏の放牧地電気牧柵は全て一段張り。



西郡正俊氏の説明を聞く参加者放牧地の草種は主に野シバとイタリアンライグラス。



朴木集落放牧組合の川野組合長、県中部振興局担当者の説明。組合長「放牧を始めてから農地管理が非常に楽になった」とのこと。



現地で設置している牧柵の張り方の良い点や注意点などについて説明する講師の県畜産研究部職員。この後、全員で圃場内を巡回しながら張り方等を検証。



集落放牧組合の放牧地、1haの放牧地は水田の枚数は20数枚とのこと。この日は4頭入牧中。



日中は上方片隅の日陰で休息し、日照りが和らぐと、草地に出て採食する。



湧水を取り水し、風呂桶を利用した給水施設。



庄内町内の耕作放棄地における県畜産研究部のレンタカウ2頭の放牧地。



由布市畜産センターにおける意見・情報交換会。